

# 「福島を想うプロジェクト」

## 恵泉女学園大学

恵泉女学園大学（東京都多摩市）は、東日本大震災で最も広範囲に被害を受けた福島県の農業や農家の人々に対し



学生が農作物を販売した

て、何か支援ができないかと模索していたが、人間社会学部の澤登草苗学部長が呼びかけ人となって、去る5月末「福島を想うプロジェクト」を実施した。

これは、風評被害をこえて、農業者と支え合う道を探るために行ったもので、日本国際ボランティアセンターや、日本有機農業学会などの団体と共催した。

農業については、同大の学生たちは、必修授業で1年間、野菜を育てることを実践していることから、自分で育てた作物に対する思いは人一倍強い。タネから自分の手で

育てたものを、各自家に持ち帰って食べるという実体験を通じて、学生たちは多くのことを学び、食べ物を作ってくれる農業者の応援団となっていく。そのため、福島県の被災者支援に対しては、特に強い関心を寄せていた。

こうした熱い想いから、学生たちは現地に行かずに東京にいても、風評被害を受けている農業者の皆さんから直接話しをうかがうことを通じて、何かできることがあるはずだと考えていたものが、この「福島を想うプロジェクト」恵泉」につながったのだという。

そこで5月末、福島の農家の皆さんを同大に招き、被害の状況や悩みなどを学生たちに直接伝えてもらうと共に、一般市民に向けて、福島産の農作物を販売する応援イベントを開催。

トを開催。

当日は、木村利人学長の挨拶のあと、福島応援フェスタとして「オーガニック・カフェ」福島の農産物の販売「福島の写真展」などがあり、最後に、トークセッション「農業と原発は共存できない」私たちは地域とともに生きていく」を澤登学部長のコーディネートで進行。参加者は改めて今回の大震災の被害と、被災地の人々の苦労の大きさに驚いていた。福島から参加した農家の人々も、「これからは勇気を持って、風評被害に感わされしないで、安全で美味しい食べものづくりに励みたい」と話していた。

この様子は、同県出身の同大大学院生により、ユーストリウムで生中継され全国に配信。多くの方が、福島の農業者の悲痛な声に耳を傾けた。